

List Pl. Formos. 199 (1928)—Kudo et Masamune in Ann. Rep. Bot. Gard. Taihoku Imp. Univ. 2: 107 (1932)—Masamune, List Vasc. Pl. Taiwan 56 (1954)—Hsieh et Yang, Nomencl. Pl. Taiwan 480 (1969)—Liu et Ying, in Li et al., Flora of Taiwan 2: 676, pl. 445 (1976), syn. nov.

*Arabis lithophila* Hayata, Icon. Pl. Formos. 3: 18 (1913)—Takeo Ito, Taiwan-shokubutsu-zusetsu 967 (1927)—S. Sasaki, List Pl. Formos. 200 (1928)—Kudo et Masamune in Ann. Rep. Bot. Gard. Taihoku Imp. Univ. 2: 107 (1932).

Specimens examined. Taiwan. Isl. Keelung (S. Sasaki, May 8, 1910, TI—holotype of *A. kelung-insularis* Hayata), Fukweichiao (S. Sasaki, Apr. 29, 1910, TI—holotype of *A. lithophila* Hayata), Shihmen (S. Sasaki, May 29, 1932, TNS; S. Sasaki, Mar. 25, 1924, TNS; K. Kimura, May 29, 1932, KYO).

Distr. Amur, Sakhalin, Japan, Korea, and Taiwan.

(東京農業大学 図書館標本部)

○四川省産イカリソウの 1 種 (原 寛) Hiroshi HARA: *Epimedium acuminatum* Franch. from Mt. Omei, China

昨年 5 月 3 日四川省峨眉山中腹で採ったイカリソウの一種が今春 4 月東京で開花した (Pl. XV)。四本の内曲した距をひろげた花形はイカリソウに似ているが、よく見ると随分違っている。距をつけた花弁は全く弁身部を欠き、中空の角状になった距だけなので、その基はぼっかりと大きく口を開けている。したがって中央に立っている蕊が裸出して目立つ。花茎には対生した 2 茎葉をつけている。Stearn (1938) のモノグラフでは、花弁が大形で距だけになった仲間は Sect. *Phyllocaulon* Subsect. *Diphyllon* Ser. *Dolichocerae* Subser. B に入れられており、近縁の 4 種は皆中国西部・中部に分布している。*Epimedium acuminatum* Franch. については峨眉山産の標本も引用されているが、この種の花色は採集者によって異なった記録が引用されている。私が現地で見ただけの花と、東京で咲いた花では、内萼片は白色、角状の距は基部がえび茶色をおびた濃紫色で萼との対象が美しく、距の先の方へ向かって色は淡くなり白っぽくなる。全株ほとんど無毛であるが、成葉になると下面は微細な乳頭状突起でおおわれ粉白となり、ごく短いやや太い伏毛がでてくる。中国には面白い植物が沢山あるのだということを痛感させられた。

**Explanation of the plate XV**

*Epimedium acuminatum* Franch. collected on Mt. Omei, Prov. Sichuan, and cultivated and flowered in Tokyo in April 1982.

(東京大学 総合研究資料館植物部門)



A



B

H. HARA: *Epimedium acuminatum*